

Joe の豪ドル道場 (276)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髄に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに
 対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)

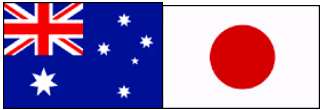
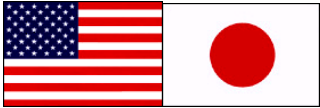
(豪ドル円日足)

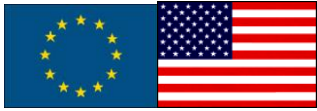
(米ドル円日足)

(ユーロ米ドル日)



<長期予想ビジョン>

通貨ペア	2010年12月末予想推移 (レート/変更日/実勢)
	0.8700 (予想レンジ 0.75-0.95) (31Mar 2010/0.9150)
	87.00 (予想レンジ 73.00-93.00) (31Mar2010/85.5)
	100.00 (予想レンジ 85.00-102.00) (31Mar2010/93.50) 100.00 (予想レンジ 82.00-102.00) (11Aug2010/85.35)



1.3000 (予想レンジ 1.27-1.45) (31Mar2010/1.3400)

2009年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値 (2008年11月時点のレート)	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8000 (0.7500)	0.8054
AUDYEN	80.00 (65.50)	77.58
USDYEN	100.00 (99.00)	96.31
EURUSD	1.3500 (1.2700)	1.4035

2009年12月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	12月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.9000	0.8980
AUDYEN	81.00	83.50
USDYEN	90.00	93.00
EURUSD	1.4500	1.4320

2010年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8700	0.8404
AUDYEN	82.65	74.26
USDYEN	95.00	88.37
EURUSD	1.2500	1.2167

<キーワード>

ドル円 15年ぶりの安値更新 **84.74 (8/11)**、前回 85 円割れ **84.82 (11/27)**、米国景気減速、米追加緩和観測、中国景気減速、中国貿易黒字拡大、人民元弾力化政策、米国出口戦略後退、豪州総選挙 (8/21)、新鉱物資源利用税 (MRRT)、欧州信用懸念緩和 (PIGS)、中国為替操作国認定されず (7/9)、各国出口戦略、RBA6月以降金利据え置き (5月6回目の利上げ (5/4) -10月、11月、12月、3月、4月、5月 25bp 利上げ)、中国金融引き締め、中国不動産投資規制、中国の銀行融資規制、金価格史上高値更新 1261.45 (6/21)、米商業不動産問題、オバマ大統領に支持率 50%割れ (11/22)、ドルキャリートレード、中国の豪州資源投資、日米ゼロ金利はいつまで続く? ドル円 100 円超えから反落し 100 円に戻らず (2009年4月以降)、RBA 豪ドル買い介入 (10月、11月 2008年)、RBA78セント台で利

食いの売りの噂(2009年5月)、RBAの市場でのネット豪ドル売りは2010年6月1229mio、5月445mio、4月350mio、3月892mio、2月424mio、1月295mio、2009年12月946mio、11月313mio、10月307mio、9月830mio、8月576mio、7月705mio、6月1.94bio、5月1.55bio外為市場で豪ドルネット売り（一種の売り介入との捉え方も）

<注目イベント>

16（月）日第3次産業活動指数、第2四半期GDP・一次速報、ユーロ圏消費者物価指数、ニューヨーク連銀製造業景気指数、対米証券投資NAHB住宅価格指数、17（火）RBA議事録、スティーブンス総裁講演、ユーロ圏経常収支、独ZEW景況感調査、ユーロ圏ZEW景況感調査、米生産者物価指数、住宅着工件数、建設許可件数、鋳工業生産、設備稼働率、18（水）日景気動向調査、BOE議事録、19（木）米新規失業保険申請件数、カナダ景気先行指標指数、卸売売上高、米フィラデルフィア連銀景況指数、20（金）カナダ消費者物価指数、23（月）ユーロ圏消費者信頼感、24（火）独第2四半期GDP、米中古住宅販売件数、リッチモンド連銀製造業指数、25（水）日通関ベース貿易収支、独IFO景況感調査、米耐久財受注、新築住宅販売件数、住宅価格指数、26（木）米新規失業保険申請件数、27（金）日失業率、東京都都区消費者物価指数、全国消費者物価指数、英第2四半期GDP、米第2四半期GDP・改定値、米ミシガン大消費者信頼感指数・確報値

<当地の気になる情報>

豪連邦準備銀(RBA)が今月3日の理事会で、政策金利を4.5%に据え置いた背景が、昨日公表されたRBA議事録の内容で明らかになった。4~6月期の消費者物価指数(CPI)がインフレターゲット(2~3%)範囲に収まったことで、利上げ要因が見当たらなかったという。また、依然として不安定な世界情勢に柔軟に対応するための措置との見方もある。

議事録では、年初に問題視していた住宅価格についても、落ち着きを取り戻したと指摘。4~6月期のCPIは基調インフレ率が年率2.7%と、2007年4~6月期(2.7%)の水準となった。連邦政府が5月1日から、たばこ税を25%引き上げたにもかかわらず、前期(3.0%)に比べ0.3ポイント下落。当分の間、同水準でCPIは推移し、景気は安定するともみている。また、ギリシャの信用不安に端を発する欧州の債務危機については、7月末に実施されたストレステスト(健全性審査)の結果を受け、市況が安定したものの、先行きは依然として不透明との見方を示した。景気刺激策の影響が薄らぎ始めた米国、不動産バブルが懸念される中国経済の動向にも注目していく必要があるという。

RBA が昨年 10 月から 6 回にわたり実施した利上げ効果により、物価は安定しているものの、世界情勢によっては豪州経済の状況は大きく変化する状況にもあるようだ。主要先進国の中では金融危機による景気低迷から一早い回復を遂げた豪州だが、今後の見通しに関しては依然として不透明な状況が続いているともいえる。

<豪ドル相場解剖>

- ・ 豪ドルトレンド 6 カ月間 レベルをシフトダウン後、保合 (豪ドル 90 セント中心→87 セント中心±400 ポイント、豪ドル円 85 円中心→80 円中心±500 ポイント)
- ・ 足元のセンチメント やや持ち直し
- ・ 足元の予想 株価反発なら豪ドル上昇

(大局ー相場力学) 2008 年 7 月から 10 月にかけて大暴落 (史上高値 98 セント台→60 セント台、104 円台→55 円台) した豪ドルは、2008 年末～2009 年年始にかけて下部の“鍋底”を形成して上昇エネルギーを蓄えた。2009 年 3 月より上昇モーメント徐々に積み上がり年間を通して上昇トレンドを形成 (94 セント台、85 円台まで) し 2010 年 3 月まで上昇トレンド継続した。4 月に戻り高値 93 セント台、88 円台の高値を付けた後、上方エネルギー放出→再蓄積のサイクルを繰り返してきたが、5 月に下方モーメント爆発して 80 セント台、71 円台まで大幅下落。その後は概ね 81 セント台～92 セント台、73 円台～80 円台の比較的大きなレンジ内での“波動相場”を形成。現在波動の上値圏から下降中。

(2002 年～今日までの動き)

2000～2001 年の国内景気後退で軟調推移していた豪ドルは、世界経済の拡大基調を背景とした国際商品価格の大幅上昇や、国内景気回復に伴う RBA の金融引き締めによる金利格差が追い風となり、2002 年から長きにわたり上昇トレンドを形成した。アセットバブルの急膨張を背景に 2008 年 7 月には史上高値< 0.9848、史上高値 (7/15)、104.47 円 (7/21) ただし豪ドル円の史上高値は 107.88 (2007/10/31) >を示現したが、直後リーマン破綻に象徴される世界金融恐慌が勃発し暴落を演じた。0.6009 (2008/10/27)、

55.20 円 (2008/10/24 史上安値) まで下落し、2008 年末～2009 年年初にかけて下値圏で保合相場を形成。2009 年年初より各国協調によるドラスティックな財政・金融両面からの景気刺激策実施を受けて世界的に株価が 2009 年 3 月に底離れしたのを契機に 4 月以降上昇に転じ、6-8 月は 77 セント-84 セント、70 円-82 円での中段保合を形成。世界の株価や商品相場の堅調と国内景気の予想を上回る回復を背景に RBA は 2009 年 10 月から 3 ヶ月連続で政策金利を 25bp ずつ引き上げて史上最低レベル (3.0%) のオフィシャルキャッシュレートを 12 月には 3.75% とした。豪ドルも 10 月以降再度上昇トレンドを開始し 11 月には 2009 年年間高値 < 0.9406 (2009/11/16)、豪ドル円は 85.32 (2009/10/23) > を付けた。2010 年年初は新年の世界経済への期待感、株価堅調、商品相場の上昇などを背景に 93 セント台、86 円台まで上伸してスタートしたが、その後中国の金融引き締め (預金準備率引き上げ)、ギリシャ初め南欧諸国の信用リスク、オバマ大統領の新金融規制案でリスク許容度が低下して商品相場、株価が調整局面に入り、更に RBA 金利据え置き決定 (2/2) で一時 86 セント割れ、76 円近辺に大幅下落 (2/4)。その後は豪州の金利格差 (3 月利上げ)、景気格差、商品相場の堅調が豪ドルをサポートする一方、ギリシャ問題など南欧の信用リスク問題や中国の金融引き締めなどのリスク要因が売り材料となり一進一退を繰り返した。

4 月に入り 5 回目の利上げも後押しして今年の高値 0.9389、88.07 円まで上昇したが、根強いギリシャ問題、人民元切り上げ観測、ゴールドマンサックス訴追問題などでリスク回避の動きも強く、5 月の 6 回目の利上げを挟んで 0.91～0.93 台、85 円～87 円台での UP & DOWN の揉み合いを繰り返した。しかし 5 月半ばにかけて欧州ソブリンリスクの世界蔓延懸念から市場パニックとなる中、リスクアセット全般が大幅下落し、豪ドルも 80 セント台、71 円台まで暴落したが、5 月末にかけてさすがに徐々に落ち着きを取り戻し 85 セント台、78 円台まで値を回復したが、リスク回避の動きに上伸を阻まれる。6 月金利据え置き、Q1GDP の結果は予想の範囲内、高値 0.8523、79.03 円まで上がって再び欧州問題、弱い米雇用統計を受けたリスク回避の動きで 80 セント台、73 円台に反落。その後徐々に欧州問題こなれ、加えて中国の人民元政策柔軟化発表を受けて 88 セント、80 円まで反発。7 月に入り欧州懸念に加えて、米景況感悪化、中国景況感悪化と重なり 83 セント台、72 円台まで大幅下落。発表された 6 月豪雇用統計の非常に強い数字や資源税に対するギラード新政権の妥協も好感され、加えて欧州危機に対しても欧州銀行へのストレステスト実施であく抜け感強まり 88 セント台、78 円台に再び上昇したのち、中国の弱い指標や米景気後退懸念を嫌気して 86 セント台、74 円台まで反落。ストレステスト通過でリスク回避の巻き戻しで 90 セント台、79 円台まで上伸後、CPI を受けて 89 セント台、77 円台まで反落 (7/30)。8 月は米景気不安から米金利低下し豪ドルは 91 セント台に上昇する一方、ドル円の 85 円台への急落を反映して豪ドル円は 78 円台前半に下落 (8/9)。その後中国の輸入減少を嫌気し FOMC 前のポジション調整、及び FOMC での米追加金融緩和で豪ドル 90 セント台、豪ドル円 77 円台に反落 (8/11) ドル円の 15 年ぶりの安値 84 円台への下落を受けて豪ドル円は一時 75 円台に下落 (8/12) その後 90 セント台後半、77 円台後半まで反発するも買い続かず (8/18)

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.8300-0.9300、豪ドル円 70.00-88.00 円

(小局) 基本はやはり米景気スローダウン=米ドル安だが、時折調整が出る

現状を整理してみると、今年上半期の焦点であった欧州ソブリンリスクは ECB、欧州委員会のギリシャ等

への支援策実施とストレステストにより鎮静化。代わって米景気後退懸念から米金利（特に長期金利）が史上最低レベルに低下し、ドル安地合いが6月以降続いてきた。またドル円は先週84.74円と1995年4月以来の安値を付けたが、その後は日本の当局の円高けん制発言も出回り一旦86円台まで反発するも、引き続き85円台前半で頭が重い。基本的には欧州問題にしても、米景気にしても、中国のバブルバースト懸念にしても、不安材料が表面化すると“リスク回避の円買い”となるが、昨今では円と同じゼロ金利である米ドルがリスク回避の買いの標的となることも珍しくなく、したがってリスク回避の“円買い・ドル買い”が出回ることになる。米ドルは米金利低下からのドル売りとリスク回避のドル買いが状況によって混在するので、ドルストレート（ドル対その他通貨）の取引を困難にしている。加えて円はドルストレートとしてよりもむしろ“クロス取引の具”に供されるために更に複雑な動きとなる。足元“米ドル”が焦点であるために、やはり豪ドルについても豪ドル米ドルと豪ドル円の動きを分けて考える必要がある。豪ドルは米ドル軟調地合となれば基本的には堅調、一方豪ドル円はドル円の動きを受けるため、ドル円が再び85円台を割り込んで82-83円を狙うか、あるいは当局牽制や、“米経済が思ったより悪くはない”となればドル円の激しい買い戻しが入る可能性も否定できず、足元岐路に立っているといえる。

(向う1週間の予想レンジ:豪ドル米ドル 0.8850-0.9050 豪ドル円 75.00-79.00)

<豪ドル売り・買い指数—現状分析（前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビュー訂正）>

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10（最弱）から+10（最強）まで独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。たとえば10項目であれば、理論上総合判断では最強を+100、最弱を-100となる。各要因は相関（または逆相関）関係があるが（たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（-）となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（+）となりうるなど）。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で“現状分析”が主眼。これを元に将来を予測する一助とする。総合判断の数字が「±50」以上など大きくぶれた時がチャンス！！

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ（経済・政治）	*Good 6月貿易収支+3.5bio(予想1.8bio 前回1.8bio)(8/4)、Q2住宅価格+3.1%(予想+2.0%)(8/4)、5月民間融資残高(+0.5%、+0.4%予想)、Q1GDP前期比+0.5%（予想+0.5%前回+1.1%、	-3	-2

前年比+2.7%予想+2.4%前回+2.8%) (6/2)、2月 Q1AVG 週間賃金(前期比+1.1%、予想+0.9%、年々比+5.8%、予想+5.4%) (5/20) Q4 住宅着工+15.1% (前期比、8年ぶりの高水準、前回+11.0%)、2009年 Q4 企業信頼感指数 18 (前回 16、1994年 Q4 以来の高水準) 企業景況感指数 9 (前回 5、2008年 Q1 以来の高い水準) (2/18)、豪政府連邦予算案は景気見通しを上方修正

2009/10+2.0% (前回+1.5%)、2010/11+3.25% (前回 2.75%) (5/11)、RBA 四半期金融政策報告 (8/6) 2010年 GDP 予想 3.25% (前回から据え置き) 2011年 3.75%、2012年 4.0%)、基調 CPI 予想 2010年 2.75%、2011年 2.75%、2012年 3.0%

***Bad**—6月 WESTPAC 景気先行指数 0.0% (前回 0.2%) (8/18)、8月熟練工求人率-0.3% (前回+0.3%) (8/18)、Q2 賃金インデックス (+0.8%、予想+0.9%、Y/Y3.0%、予想 3.1%) (8/18)、7月新車販売-2.6% (前回-1.2%) (8/16)、7月雇用統計(失業率 5.3%、予想 5.1%、前回 5.1%、就業者数+23.5千人、予想+20千人、前回+37.4千人) (8/12)、NAB7月企業信頼感 2 (前回 4)、企業景況感 5 (前回 8) (8/10)、8月 WESTPAC 消費者信頼感指数 5.4% (前回 11.1%) (8/11)、7月 ANZ 求人広告 1.3% (前回 2.7%) (8/9)、6月住宅融資-3.9% (前回-2.0%) (8/9)、7月 AIG サービスインデックス 46.6%(前回 48.8%)(8/4)、6月建設許可-3.3%(予想+2.0%、前回-6.6%) (8/3)、6月小売売上高 +0.2% (予想+0.4%、前回+0.2%) (8/3)、HIA6月新築販売 (-5.1%、前回-6.4%) (8/2)、7月 TD 証券インフレ指数+0.1% (+0.3%前回) (8/2)、6月民間信用+0.2% (予想+0.4%) (7/30)、豪 CPI(前期比 0.6%、前年同月比 3.1%、RBA アンダーライニング CPI 前期比 0.5% (前回 0.8%) 前年比 2.7% (前回 3.05%) (7/28)、豪 Q2PPI、(前期比+0.3%、予想+0.8%、前回

	+1.0%、前年比+1.0%予想+1.5%、前回-0.1%)(7/26)、Q2NAB 企業信頼感指数 (6、前回 17)(7/23)、7 月インフレ期待指数 3.3% (前回 3.4%、過去 4 カ月で最低) (7/15)、6 月新車販売-1.2% (前回-3.9%) (7/15)、6 月 AIG 建設業指数 46.4 (前回 53.2) (7/7)、+3.6% (+3.7% 前回年率)、Q1 経常収支 (-165 億ドル、予想-164 億ドル、前期-184 億ドル) (5/31)、Q1CAPEX (民間設備投資) (-0.2%、予想+1.4%、前回 +5.5%) (5/27)、Q1 建設活動 (+1.9%、予想 +4.0%) (5/26)		
市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消などに関わる)	NYK ダウ 103 ポイント上昇で 10,405 ドル、VIX インデックス-1.77 で 24.33、センチメント改善。	+2	-1
短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMM ポジションなどから判断) 調整の有無	IMM は豪ドル買いポジションの 54,310 枚 (5,655 枚の BUY 増加) (8/10)。市場ポジションは豪ドル若干ロング、豪ドル円若干ショートポジション	-1	+1
商品相場	原油は 75 ドルに続落、金は 1225 ドルで変わらず。CRB インデックスは 270 に上昇。石炭、鉄鉱石共に 9 月以降値下げ圧力。	+1	-1
金利-2	8 月金利据え置き。年内金利据え置き観測も。 <u>米金利先高観後退で豪ドルフェイバー。</u> 市場予想は 2010 年年末 4.75~5.00%、2011 年年末 6.00%。米豪 10 年利回り格差 2.3%に拡大。	-1	-1
需給	<u>外貨投信は不冴え。</u> 今年石炭、鉄鉱石価格増加 (50-60%以上) を見込んだ需要。ただ年後半は中国景気スローダウンで値下げ圧力も。外債発行需要。今年昨年より中国など海外からの直接投資、M&A に絡む豪ドル買い需要が増えそう。マッカーサー coal の買収観測。NAB1000 億円サムライ債発行の話。	+2	+2
テクニカル (チャート)	日足は“ラウンド天井”後反発。また豪ドル円でゴールデンクロスするもはっきりせず (また	+1	-1

	クロス外れる可能性も)。一目均衡表の雲 (0.8469-0.8673、76.38-76.77) の豪ドルは雲の上で若干反発、豪ドル円は雲の若干上に出てきた。ボリンジャーバンド (0.8876-0.9233、76.23-79.62) の下限から反発！RSI は豪ドル 53%、豪ドル円 47%とニュートラル近辺。豪ドルは月曜日の長大下ヒゲが効いた。昨日長大陽線出したが本日はここまで反落。「当て線」となり後で上昇か？		
その他 (日替わり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギリシャ問題/ユーロ圏経済 ・ 円売り豪ドル買いキャリートレード、当局円高けん制 ・ 米国の出口戦略 (景況、企業収益) ・ 中国関連 (人民元切り上げ、金融引き締め経済指標 etc) ・ 資源超過利潤税 ・ 豪総選挙 	+1 +1 -1 -1 -1 -1	-1 -1 -2 -2 -1 +1
“ <u>現状</u> ” 総合判断 (必ずしも今後の予測とはならず)	ほぼニュートラルバイアス	-1	-6

(*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

<結論、今後の戦略> ドル円は 85.00 を意識しながら行ったり来たり

ドル円は結果として 86.50 のショートから始まり 85 円割れとの間で 4-5 回売ったり買ったりしている。永久にこれが続くのなら何度でもやるが、そんなこともないだろう。お偉い方々の意見を聞いても 1995 年の安値 79.90 を更新すると言う過激な意見が結構多い。その割には全くと言っていいほど過熱感がないのがむしろ気持ち悪いくらいである。こんなずるずる相場では介入が出る雰囲気すら醸し出されないであろう。いずれにしても盲目に史上安値を目指してドル円をショートにするのもちょっとしんどい感じ。特に昨日の米国鉱工業生産や先週の小売

売上高が予想以上や予想並みとなっており、“米国そんなに悪くない”とならないでもない。加えてこれ以上黙って円高相場を黙認すると菅民主党は“おしまい”であろうことを考えると、ここはちょっとドル円ロングで行ってみたいところ。なし崩し的にドル円が新安値に突っ込めば多勢に無勢で“ドテン”でそれにフォローするのもいいだろう。金ロングはリスク回避からそろそろ投資選好の買いがついてくれば、もっと上がるであろう。

・前回のポジション

USDYEN short at 85.95 PT 85.30 (DONE) SL 86.60

金 long at 1161 PT 1240 SL 1140

・現在のポジション

USDYEN long at 85.30 PT 86.00 87.00 SL 84.50

AUDYEN long at 77.05 PT 78.00 SL 75.80

金 long at 1161 PT 1240 SL 1140

本日の予想レンジ： 豪ドル米ドル 0.88950-0.9070、豪ドル円 76.80-78.00

<懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その二百七十四) 買いオーダー、売りオーダーを置く危険性 (技術面)

利食いのための買い戻しオーダー、売り戻しオーダーであれば、それは全く問題ないと言
うか、自由にやっていいだろう。もちろん買いレベルよりも大幅に下がったり、売りレベ
ルよりも大幅に上がってしまえば、悔しい気はするだろうが、実損になる訳ではない。これ
に比較して、ポジションメイクのオーダーをリーブする場合は慎重にやりたいものだ。特
に夜寝る前や、外出する場合などはそうであろう。というのは目の前のレベルで売ったり、
買ったりしてポジションを作ることに消極的な場合がオーダー形式になるわけだ。つまり
もう少し低いレベルで買いたい、もう少し高いレベルで売りたいということだ。目の前の
レベルより低いレベルで買えれば、また高いレベルで売ればそれだけリスクが減ること
は事実である。しかし為替相場では何が起こるか分からない。例えば 50 ポイント下に買い
オーダーを出した後で大きな売りニュースが出れば 100-200 ポイントなどあつという間に
飛んでしまう。もちろん買い/売りオーダーにストップロスを付けるのであれば、リスクは
限定されるし、また自分の描いたような展開になれば、何もしないで朝起きれば収益がで
きているという夢のようなことも時には起こるであろう。リーブ形式でポジションテーク
のオーダーを置く時は色々な状況を想定するとともに、ストップロスの併用を忘れてはい
けない。

<気になる出来事、発言>

<p>出来事 (少々長いが時々レビュー!!)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本 Q2GDP+0.1% (前期比予想+0.6%、前回+1.1%) +0.4% (前期比年率予想+2.3%、前回+4.4%) (8/16) ・ 日銀ドル円 85 円近辺でレートチェック (日銀確認) (8/12) ・ 米 FOMC 金利ターゲット 0.00-0.25% で不変、「長期にわたる異例の低金利継続」、MBS・政府機関債の償還資金を米国債に再投資 (8/10) ・ 米 7 月雇用統計失業率 9.5% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-131 千人 (予想-65 千人、前回-221 千人) (8/6) ・ RBA 金利据え置き 4.50% (8/3) ・ 米第二四半期 GDP +2.4%(予想+2.6%、前回+3.7%) (前期比年率) (7/30) ・ NZ 準備銀行利上げ 2.75%→3.00% (7/29) ・ 豪州 Q2CPI 前期比 0.6%、前年比 1.0%、アンダーライニングインフレーション前期比 0.5%、前年比 2.7% (7/28) ・ EU ストレステスト 91 行中 7 行不合格 (7/23) ・ カナダ中銀政策金利引き上げ 0.50%→0.75% (7/20) ・ ギラード首相 8 月 21 日総選挙を発表 (7/18) ・ 中国の第二四半期 GDP +10.3%(前回+11.9%、予想+10.5%) (7/15) ・ Moody's ポルトガル格下げ Aaa2→A1 (7/13) ・ 民主党参院選の結果過半数割れ (7/12) ・ ワールドカップサッカー—スペインがオランダ破り優勝 (7/11) ・ 米財務省中国を為替操作国に認定せず (7/8) ・ 6 月の豪雇用統計 (就業者数+45.9k、予想+15.0k、前回+22.8k、失業率 5.1%、予想 5.2%、前回 5.2%) (7/8) ・ RBA 金利据え置き 4.50% (7/6) ・ 6 月米雇用統計、非農業部門就業者数-125 千人 (予想-130 千人、前回+433 千人、失業率 9.5%、予想 9.8%、前回 9.7%) (7/2) ・ 資源超過利潤税 30% で政府/鉱山会社合意 (7/2) ・ カナダ G8、G20 (6/26-/27) ・ 米 FOMC で出口戦略出ず (6/23) ・ 中国人民銀行人民元の柔軟化方針を発表 (6/19) ・ 欧州連合、金融機関のストレステスト実施で合意 (6/17) ・ EU 首脳会議 (6/17) ・ ムーディーズ、ギリシャ格付けを A3 から BA1 に格下げ。見通しは良好 (6/14) ・ FIFA ワールドカップ開催 (6/11) ・ BOE 政策金利据え置き (0.5%、予想 0.5%) ECB 政策金利据え置き (1.0%、予想 1.0%) (6/10) ・ 5 月の豪雇用統計 (就業者数+26.9k、予想+20.0k、前回+25.3k、失業率 5.2%、予想 5.4%、前回 5.4%) (6/10)
--------------------------------	---

- ・ NZ 準備銀行利上げ (2.50%→2.75%) (6/10)
- ・ 米国 5 月雇用統計 (非農業部門就業者数+43.1 千人—内国勢調査臨時雇用 +411 千人 (予想+500 千人、前回 290 千人、民間は+41 千人、失業率 9.7% 予想 9.8%、前回 9.8%) (6/4) .
- ・ 豪州 Q1GDP 前期比+0.5% (予想+0.5%前期+1.1%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前期+2.8%) (6/2)
- ・ 鳩山首相辞任 (6/2)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (6/1)
- ・ 社民党連立政権を離脱 (5/30)
- ・ フィッチスペインを AA+に格下げ (5/28)
- ・ 米中戦略経済対話 (5/24-25)
- ・ 独政府、株、国債、CDS の空売り規制を独主要 10 行に実施 (5/18)
- ・ EU ギリシャに一回目の融資 145 億ユーロ実施 (5/18)
- ・ 4 月の豪雇用統計 (就業者数+33.7k、予想+22.5k、前回+19.6k、失業率 5.4%、予想 5.3%、前回 5.4%) (5/13)
- ・ ギリシャ政府正式に 200 億ユーロの支援実施を要請 (5/11)
- ・ 豪州連邦予算案 (2010/2011 年度) 発表 (5/11)
- ・ 英国保守・自民連立政権 (キャメロン首相) 成立 (5/11)
- ・ EU 財務相会議で EU 安定化プログラムに合意 (5/9)
- ・ EU 総額 750bio(内 IMF250bio 拠出)のユーロ支援で合意 (5/9)
- ・ 欧州各国リーダー/IMF は公式にギリシャ救済策 (80bio/30bio) を承認 (5/8)
- ・ 米国 4 月雇用統計 (NFPR +290k、予想 190k、前回 230k、失業率 9.9% 予想 9.7%、前回 9.7%) (5/7)
- ・ ソブリンリスク問題拡大を嫌気し NYK ダウ一時 1000 ポイント (1 万ドル割れ) 下落 (5/6)
- ・ **RBA 利上げ 4.25%→4.50% (5/4) (6 回目)**
- ・ EU 財務相会議でギリシャ救済策決定—総額 1,100 億ユーロ (EU が 800 億ユーロで 300 億は本年分、IMF が 300 億ユーロ、金利 5%)
- ・ 中国今年 3 度目の預金準備率 0.5%引き上げで 17.0%に (5/2)
- ・ 米国 Q1GDP 前年同月比+3.2% (予想+3.4%、前期+5.6%) (4/30)
- ・ FOMC 長期間の低金利維持を再確約、FF 金利の誘導目標は引き続き 0.0%-0.25%(4/28)
- ・ S&P スペインの格付けを AA に引き下げ (4/28)
- ・ 豪州 Q1CPI、RBA インフレ率 3.05% (予想 2.95%、前回 3.4%) (4/27)
- ・ S&P ポルトガルの格付けを A+から A-に引き下げ (4/27)
- ・ S&P ギリシャの格付けを BB+ (ジャンク債等級) に引き下げ (4/27)
- ・ ギリシャ政府 EU と IMF に支援要請 (4/23)

- ・ ムーディーズ、ギリシャを格下げ A2→A3(4/22)
- ・ IMF 豪州の GDP 見通しをアップワードリバイズ
2010 年 3.0% (前回 2.5%)、2011 年 3.5% (前回 3.0%) (4/22)
- ・ RBA 議事録 (4 月分) - 金利は平均をわずかに下回っている。追加利上げの可能性 (4/20)
- ・ 米証券監視委員会(SEC)サブプライム関連 CDO 取引でゴールドマンサックスを詐欺容疑で提訴 (4/16)
- ・ 中国 Q4GDP (前年同期比) 11.9% (予想 11.7%、前期 10.7%)
- ・ ワシントン核保障サミット (4/12-13)
- ・ EU16 カ国財務相 - ギリシャの要請があった場合 2 国間融資で 300 億ユーロまで資金供与で合意。期間 3 年、金利 5%程度 (4/11)
- ・ 中国の 3 月貿易収支-\$0.7bio (2004 年 4 月以降初めての赤字) (4/10) .
- ・ 豪州 3 月雇用統計 - 失業率 5.3% (前回 5.3%) 就業者数+19.6 千人 (前回 -4.7 千人) full time job +30.1 千人 (4/8)
- ・ **RBA 利上げ 4.00%→4.25% (4/6) (5 回目)**
- ・ 3 月米国雇用統計、失業率 9.7%、NFPR+162 千人 (前回 9.7%、-14 千人) (4/2)
- ・ 日銀短観 (Q3) 大企業製造業 DI-14 (予想-14、前回-24)、先行き-8 (予想-8、前回-18) (4/1)
- ・ 欧州首脳会合でギリシャ支援策合意 - 二国間融資と IMF の支援を組み合わせ (3/25)
- ・ フィッチ、ポルトガルのソブリン格付けを AA から AA-に引き下げ (3/24)
- ・ Google 中国の検索事業から撤退 (3/22)
- ・ 米医療保険改革法成立 (3/21)
- ・ インド中銀金融引き締め (リバースレポとレポ金利をそれぞれ 25bp 引き上げ (3/19)
- ・ FOMC - 長期間にわたって金利を異例の低水準で据え置くことを継続 (3/16)
- ・ 豪州 2 月雇用統計 - 失業率 5.3% (前回 5.2%) 就業者数+0.4 千人 (前回 +56.5 千人) (3/11)
- ・ ギリシャ議会 4.8bio ユーロの財政削減策を予定通り可決 (3/6)
- ・ 米国 2 月雇用統計失業率 9.7% (予想 9.8%、前回 9.7%)、非農業部門就業者数-36 千人 (予想-68 千人、前回-20 千人 ((3/5)
- ・ 豪州 Q4GDP 前期比+0.9% (予想+0.9%、前回+0.2%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前回+0.5%) (3/3)
- ・ **RBA 利上げ 3.75%→4.00% (3/2) (4 回目)**
- ・ 独・仏銀ギリシャ債購入計画 (2/26)
- ・ フィッチ、ギリシャの 4 大銀行を格下げ BBB+→BBB(2/23)

- ・ 米 FRB 公定歩合を引き上げ (0.5%→0.75%) (2/18)
- ・ 中国人民銀行今年二度目の金融引き締め。預金準備率を 50bp 上げて 16.50%に (2/12)
- ・ EU 首脳会議—ギリシャ救済で合意。具体策は来週に持ち越し (2/11)
- ・ 豪州 1 月雇用統計—失業率 5.3% (予想 5.6%、前回 5.5%)、就業者数+52.7 千人 (予想+15 千人、前回+37.5 千人) (2/11)
- ・ カナダ・イカルイト G7—2010 年も景気刺激策の継続で合意 (2/7)
- ・ RBA 四半期金融報告 (GDP、CPI 予想を若干上方修正) (2/5)
- ・ 12 月豪州小売売上高-0.7% (予想+0.2%、前回+1.4%) (2/4)
- ・ RBA 理事会—金利据え置き 3.75% (2/2)
- ・ 米国予算教書 (2/1)
- ・ 米国 Q4GDP (前年同月比) +5.7% (予想+4.6%、前回+2.2%)
- ・ 米上院バーナンキ FRB 議長の再任を賛成多数で承認 (1/28)
- ・ FOMC 政策金利を 0.00%~0.25%で据え置き (1/27)
- ・ IMF2010 年世界経済見通しを 10 月時点の 3.1%から 3.9%に引き上げ (1/26)
- ・ 中国の 2009 年 GDP8.7% (1/21)
- ・ オバマ大統領金融規制案発表 (1/21)
- ・ 日本航空会社更生法の適用を申請 (1/19)
- ・ 鳩山内閣支持率年初の 56%から 45%に下落 (1/18)
- ・ 豪州 12 月雇用統計 (雇用者数+35.2 千人、予想+10 千人、前回 31.4 千人、失業率 5.5%、予想 5.8%前回 5.7%) (1/14)
- ・ 中国預金準備率引き上げ発表 (1/12)
- ・ 米国 12 月雇用統計、NFPR -85 千人 (前回+4 千人)、失業率 10.0% (前回 10.0%) (2010/1/8)
- ・ 菅新財務相 (2010/1/7) --もう少し円安に進んだ方がよい発言。
- ・ 藤井財務相辞任 (健康上の理由) (2010/1/6)
- ・ 豪州 Q3GDP—+0.2% (前期比、予想+0.6%、前回+0.6%) +0.5% (前年比、予想+0.7%、前回+0.6) (12/16)
- ・ **RBA 理事会で 3 カ月連続 25bp 利上げ 3.50%→3.75% (2009/12/1)**
- ・ ドル円 14 年 (95 年 7 月以来) ぶりの安値 84.80 に下落 (11/27)
- ・ ドバイショック—ドバイ・ワールドの債務返済延期要請 (11/26)
- ・ 米国 Q3GDP 改定値 (前期比年率) 2.8% (速報値 3.5%) (11/24)
- ・ 豪州 10 月雇用統計 (失業率 5.8%、前回 5.7%、就業者数+24.5 千人、前回+39.8 千人) (11/12)
- ・ RBA 四半期金融政策報告で 2009 年 GDP 見通しを従来の+0.5%から +1.75%に引き上げ。2010 年 GDP 予想を 3.25% (11/6)
- ・ **RBA 理事会利上げ 3.25%→3.50% (11/3)**

	<ul style="list-style-type: none"> • 中国第三四半期 GDP +8.9%(予想+9.0%、前期+7.9%) (10/22) • RBA 理事会—利上げ 3.00%→3.25% (10/6) • 鳩山内閣発足 (2009/9/16) • 豪州 Q2GDP 前期比、前年同期比ともに+0.6% (予想前期比+0.2%、前回+0.4%) (9/2) • 中国第 2 四半期 GDP 前年比 7.9% (7/16) • 豪州第 1 四半期 GDP 前期比、前年比ともに+0.4%でリセッション入り回避 (6/3) • GM 破産法適用申請。負債総額 1728 億ドルで米歴代 3 位 (2009/6/1) • 日本の第 1 四半期 GDP-15.2% (前期比年率、戦後最悪) (5/20) • 豪州連邦予算案(2009年7月～2010年6月)発表。\$57.6bio 赤字予想 (5/12) • ECB25bp 利下げして 1.00%、ユーロ建てカバーボンド買い入れ (5/7) • クライスラー破産法申請 (4/30) • RBA 利下げ 3.25%→3.00% (4/7) • ロンドン G20 (2009/4/2) • ダウ一時 6467 ドルの新安値に下落。(3/6) 終値安値は 3/9 の 6547 ドル • 豪州 Q4GDP -0.5% (前期比) (3/4) • 米景気対策法 (7870 億ドル) 成立 (2/17) • 日本の第 4 四半期 GDP 年率-12.7%(2/16) • 豪上院 420 億ドル景気対策法案を可決 (2/13) • RBA 利下げ 4.25%→3.25% (2009/2/3) • オバマ大統領就任式 (2009/1/20) • 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (2008/12/19) • 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%～0.25%に引き下げ (2008/12/16) • RBA 利下げ 5.25%→4.25% (2008/12/2) • 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5 回目) 0.6100 近辺。10 月 24 日、27 日、28 日、11 月 13 日に続く) • 米金融安定化法 (7000 億ドルの TARP が柱) 成立 (2008/10/3/08) • リーマン・ブラザーズ自力再建を断念し連邦破産法 11 条に基づく更生手続き適用を申請 (2008/9/15)
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> • FED プロッサー—米国は景気の二番底に陥らないであろう。緩やかな回復が継続するであろう (8/17) • スティーブンス RBA 総裁—過度の規制は経済成長を損なう。金融産業は過度のリスクを負うべきではない。金融ルールはダイナミックかつ効率的であるべき (8/17) • ガイトナー財務長官—住宅金融の計画については明確なコンセンサスがな い。市場は政府の住宅支援からの脱却が必要 (8/17)

- ・ コチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁—FOMC 声明は市場に予期せぬ影響を与えた。FOMC 声明に対する市場の反応は正当化されない。緩やかな景気回復は持続する可能性が高い (8/17)
- ・ 荒井国家戦略経済相—新たな経済対策を近々とは聞いていない (日銀総裁と首相との会談に関して) (8/16)
- ・ 荒井国家戦略経済相—日銀と一体となって強力かつ総合的な政策を取る・想定外の円高、日銀との連携が必要。円高が自律回復への障害になりうるかももう少し見る必要。
- ・ 菅首相—円の動きを注意深く監視。日銀総裁と必要に応じて連携していく (8/16)
- ・ 榊原元財務官—米国の弱い経済が原因となってドル円は1995年4月の安値79.75円まで落ちる可能性 (8/16)
- ・ ホーニグ・カンザスシティ連銀総裁—金利を低すぎるレベルに置くことは危険な賭け (8/14)
- ・ スイスナショナル銀行ジョーダン—介入政策はデフレリスクを減少させ、ここまで成功。中銀の最大使命は物価安定 (8/13)
- ・ 朝日新聞—来週にも円高対策で菅・白川総裁会談の予定 (8/13)
- ・ 野田財務大臣—昨今の為替の動きに重大な関心を持っている (8/12)
- ・ 菅首相—為替相場の動き荒すぎる (8/12)
- ・ 直嶋経済相—現時点で為替介入決定するのは困難 (8/11)
- ・ 大塚内閣副大臣—為替相場は重要な帰路に差し掛かっている。為替相場が経済の大きな影響を及ぼす場合は日銀は対応すべき。日銀単独介入では効果はあまりない (8/11)